

FLORE21 ホットニュース

プロ野球日本シリーズは、阪神タイガースが38年ぶりの優勝を飾りました。関西地区はさぞ盛り上がったことでしょうし、経済的効果もすごかったと思います。

（オリックスが優勝した場合とタイガースが優勝した場合とでは、経済的効果が4倍違う（タイガースのほうが大きい）との試算がされていました。タイガースファン畏るべしです）

これで流行語大賞は「アレ」で決まりでしょうか。

年末に向かい一気に時間の経過が加速していきます。松市まで1か月。

今週の関西地区のように市場も盛り上がってほしいです。

今週のホットニュースは、

○大田店 今の時期だけですよ。「ダイヤモンドリリー」

○世田谷店 秋の気持ち良いドライブ 「キク」を見に静岡県へ

○葛西店 好奇心を刺激されます。丸の内 インターメディアテク

○会長小池のコラム(過去記事) 「手間暇をかける」ということ

以上の3レポート+1です。それでは、どうぞご覧ください

OFLOの部屋

お世話になっております。

11月に入っているのにまだ半袖を着て仕事しているなんて、変な陽気ですね。

毎日の業務に追われ、気が付けば今年もあと2か月を切りました。

夏が暑すぎて、花の出荷が少なく需要期というのも重なり単価が高かった9月10月でした。11月の連休もすぎ、いよいよ冬場に出荷される産地がちらほらと始まってきました。

夜温もだんだんと涼しくなってきたので、花の品質も良くなってきましたね。

今出ている、花を紹介していきます。

今の時期一瞬の出荷期間【岩手中央農協(矢巾)】から出荷されるダイヤモンドリリー



写真の色はサーモンとして出荷される色目です。まあ「鮭いろ」です。



でもってこちらがオレンジ。→
ほぼほぼ赤です。

でもオレンジって注文を頂いたら、こちらで納品致します。

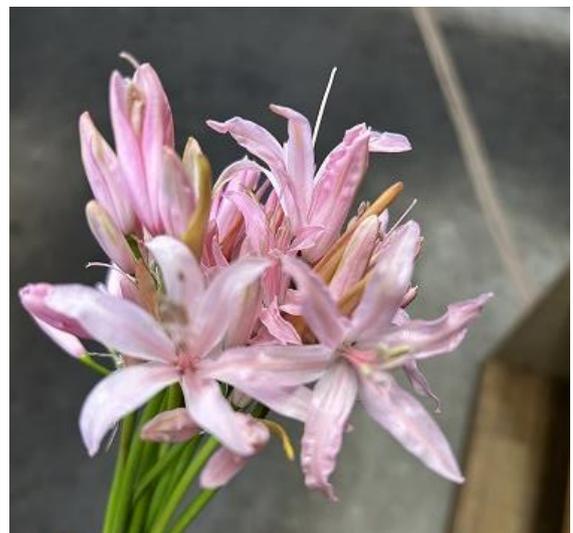
いわゆる普通にイメージする「オレンジ色」ではありません。

今のところダイヤモンドリリーやリコリスでは、切り花として「オレンジ色」は見たことがありません🍷



こちらがフラッシュサーモン

ここまで来たら、サーモンとついていても
ライトピンクで納品させていただいたりします。



矢巾ではありませんが、こっちが『**シエルピンク**』千葉の高坂さんのものです。
これも入りがいいですね。

もちろん不定期ですが、横山園芸さんダイヤモンドイリーも販売しております！

今年は、小森谷ナーセリーさんがダイヤモンドイリーを出荷しないことなので、矢巾のダイヤモンドイリーの出荷が終わってしまうと、全体の入荷量も極端に少なくなってしまいます。

あともう少しで出荷も終わってしまうので、出荷されている今時期、お使いいただければと思います。



早出しのチューリップも始まりました！
12月まで、商品のラインナップは、変わりませんが、こちら重ねてよろしくお願い致します。

今年は、超円安ということもあり、これから年末で使われる『アマリリス』（輸入）大変高額な取引となっております。

今は去年の倍の位の値段となっておりますので、心配な方は、電話で今どれくらいの価格なのかご連絡いただければと思います。

大田店 鎌田

世田谷店おすすめ

まだまだ昼間は暑い日もありますが、だいぶ秋らしくなってきました。

この度は、静岡県にあります、国の名勝に指定された沼津御用邸記念公園にて11月3日(祝)から15日(水)までの13日間にわたり行われる「菊まつり」と修善寺の「菊飾り」に行ってきました。



「沼津御用邸記念公園 菊花展」

＜菊の展示＞

11月3日（祝・金）～15日（水）

＜生け花の展示＞

11月3日（金）～10日（金）

花壇や静岡型懸崖をはじめ、丹精をこめて生育された菊が出展されていました。



《静岡型懸崖》

摘芯をくり返して、花の滝のように崖から垂れ下がった形に仕立てた、古くから広く作られる前垂れ型と、静岡からひろがった左右に大きく曲げた流水型。

上部は「富士山」中部から下部は「伊豆半島」を見立てている形なのだそうです。



《静岡型三二懸崖》



《管物（くだもの）》

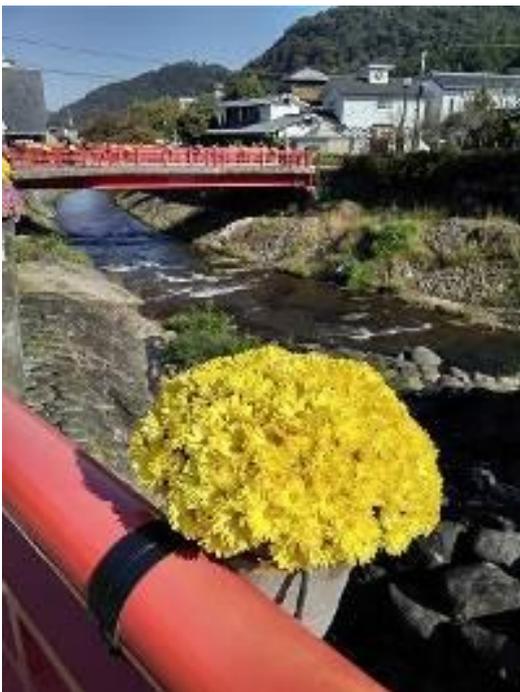
左の写真の黄色い菊は大菊のひとつ、管物（くだもの）と呼ばれている菊です。

花卉の全てが管状になっており、太いものから更に「太管（ふとくだ）」、「間管（あいくだ）」、「細管（ほそくだ）」、「針管（はりくだ）」の4つにわけられるのだそうです。

修善寺「菊飾り」

10月7日（土）～11月15日（水）
（花の状態により延長あり）

球形の株に小さい菊がたくさん集まって咲くボサ菊が沢山飾られます。





この度は菊の花中心にお届けいたしました。
どちらの展示も小規模なものでしたが、眼をたのしませてくれました。

晴れていたなので気持ちの良いドライブになりました。

世田谷店 加工部 長岡



《ボサ菊を上から撮影》



仕入れの素★葛西店

学術文化総合ミュージアム
INTERMEDIATHEQUE

東京はやっと街路樹が紅葉してきた今日この頃、まだTシャツで過ごしております。
再度、丸の内にある「KITTE 2・3F インターメディアテク」に訪問してみました。



←外観と若干紅葉した街路樹。

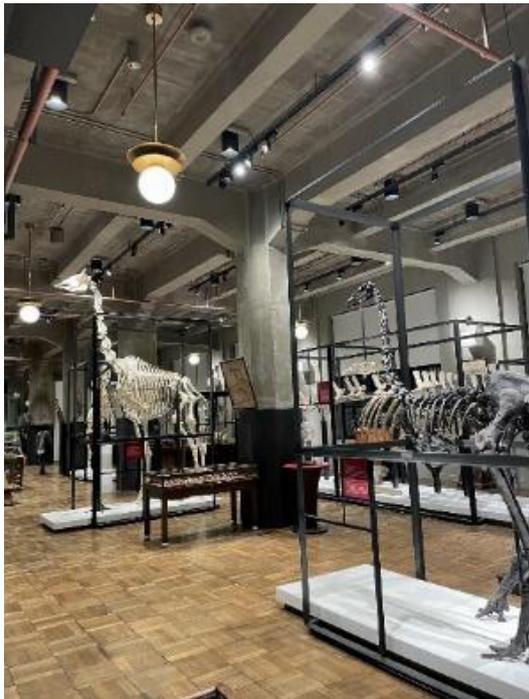
場所は東京駅丸の内口を出て左手に見える建物です。

徒歩1分の好立地にこの空間があることは魅力的です！

2階から館内に入館するとマチカネワニがいます。



最初のフロアは標本のエリアです。



クジラも正面から見るとクジラって分かん
っすね。



ここからが本題！

何の葉がわかりますか？ （全て1M以上のサイズです。）



左から「タビビトノキ」「オオニバス」「ショクダイオオコンニャク」

旅人の木は青い実など見ますが葉を見たことないですね。

大鬼蓮は最大3Mになり、その浮力は子供が乗れるくらいあるそうです。

ショクダイオオコンニャクは神代植物公園にある世界最大の花で認知されていると思います。

他にも植物の乾燥標本が展示されています。



下の写真を見ていただければひとつひとつの大きさがわかります。



展示スペースの大きさはちょうど良い広さでもう一度見直そうと戻れるのも良い！



今回、一番興味があったのが

「樹皮布（ジュヒフ）」

剥いだ樹皮を水に晒して叩きのばした不織布の一種！

近くで見ると葉巻の外側のような感じで黒い模様は柄だと思うのですが、どのように加工しているのか？

気になる？

恥ずかしながら樹皮布の存在を知らなかった？

日本ではアイヌ民族の衣服だったのですね！
北海道の人達が着ていたなら防寒性があるのかな？
色々、想像するのが愉しいです。

植物や標本など多岐にわたる展示スペースは好奇心をそそること間違いなしです。
肌寒い季節は屋内の博物館や美術館などに足をのばしましょう。
新たな発見があるはずですよ！！

葛西店 林

会長 小池潔のあれこれコラム (過去記事)

「惜しまない、手間暇」(2016年11月18日号より)

アルコール類をあまり口にしない私が、山梨で作られた発泡ワインをごちそうになった。飲みやすくフルーティな味わいで美味しいワインだった。いくつかのうんちくを聞かせていただいた中で、デラウエアで作られたワインでいくつもの賞を獲得していること、その秘密はブドウの選別にあり、一房一房、人が小さなブドウの傷んでいる粒を取り除き、いいブドウだけを選別して作ったものだを教えてくれた。

その作業は大変な根気と手間暇がかかり出来上がっている。しかもこのワインが安いということをつけ加えた。



安くても手間暇を惜しまず、おいしいものを飲んでいただきたいと思っている、作り手の思いが伝わる一品だった。

手間暇をかけていい仕事を仕上げるのは何も物作りだけではなく、販売でも大事だと言うことを教えていただいたことがある。

わが社でも大事なお客様であるスーパーオオゼキの決算説明会でのサプライズイベントであった。ある店舗の顔と呼ばれている、その店の一番の売り場に開店準備から閉店までを定点カメラで撮影した動画だった。そこには3種類から5種類ぐらいの違った商品を並べるのだが、陳列もさることながら、お客さんを引き付けるポップがすばらしい。何よりすごいのは商品の補充である。ドンドン売れていく売場に素早く商品を補充していくスタッフ。補充して補充して売り切れると、次々と新しい商品が並べられる。

季節の売れ筋商品が絶え間なく並べられる。バックヤードから商品を持ち出すスタッフは一人や二人ではない。それは労力を惜しまず、接客もしながら、お客さんへの声掛けをしながら大変な売り上げを上げている。

坪当たりの売り上げではトップと言われているオオゼキは他のスーパーの5,6倍の社員を売り場につぎ込み、お客様の満足度を人の手間暇をかけることで成し遂げている。

先日のマネジャー会議の中での話。店舗を抱える各店は、早朝から準備に取り掛かるが、店舗が4時前にはお客様の要望に耐えうる姿に成っていることが大事である。しかし店舗の陳列だけではなく、注文の仕分け、配達、遠方への送りを同時進行する。何を優先するのか論議になった。

最後に大田店の実情と、この問題をどのように考えればいいかを副社長から話があった。

それは店舗の売り場は我々の顔であり、どんなことをしてもお客さんが来るまでに、お客様の期待を裏切らない店づくり、陳列をする。手間暇を惜しまず、どれだけ手間暇をかけるのかが勝負である。このような話があった。

私はそこでの発言は控えたがそれは私たちの基本的な心得である。売り場がお客様の心を動かし、胸騒ぐものであったら。

40年前、名古屋の松原の相対市場にたびたび買い出しに行っていた。オンボロのワゴン車で5時間も東名を走り、一週間に3回も通ったことがあった。

